

所属・資格 地理学科・助手

申請者氏名 中岡 裕章

研究課題	地域資源を活用した持続可能な地域づくりの検証	
研究目的 および 研究概要	<p>これまで、エコツーリズムが地域社会に対してどのような役割を果たすのかを、埼玉県飯能市および群馬県みなかみ町を事例に、活動に携わる住民の参画意識に着目して研究をすすめてきた。本研究では、飯能市およびみなかみ町以外にエコツーリズム推進地域を選定し、日本の環境下でのエコツーリズムのあり方について検討するために、三重県での取り組みを把握し、比較分析を通じて、エコツーリズムが地域社会に果たす役割を明らかにした。さらに、エコツーリズム先進地である北欧諸国の取り組みとの比較を通じ、日本におけるエコツーリズムの特徴を浮き彫りにした。他方、近年では地域主体による地域づくりが模索されており、自治体と地域住民共同による取り組みがより一層求められている。このことを踏まえ、官民それぞれの方向性を十分に理解し、持続可能な地域社会の実現を目指すための議論を重ねたいと考える。</p>	
報告 の 概 要	研究 の 結果	<p>今年度の研究では、以下のことを検証した。①成熟した観光地である群馬県みなかみ町では、登山者やトレッキング客が集中する谷川岳周辺地域において、環境保全と観光振興の両立による観光地域づくりを目指してエコツーリズムが導入された。その結果、来訪者への環境教育が施されるようになり、谷川岳周辺地域の適正利用に繋がる可能性が示唆された。一方、エコツーリズムの推進範囲が限定されているがゆえに、町の観光業との結びつきは希薄であることもわかった。みなかみ町でエコツーリズムに係る取組みに関わる者には観光業従事者が多く、既存の観光業との連携を強く求める傾向にあるため、彼らの意向を十分に把握し、取組みの方針や実践のあり方を検討・修正することで、地域の観光業とエコツーリズムとの調和を図ることが重要であると考えられる。この内容について、現在、地理学系全国誌に投稿中である。②北海道中川町を対象として、地域資源を活用した地域づくりの可能性を検証した。中川町では、人口約1,500人の過疎地域であるが、化石を中心とした地域資源を活用し、住民と行政との協働によって地域の活性化を目指し、中川町エコミュージアムセンターにおける化石の展示や世田谷区下高井戸商店街にアンテナショップ「ナカガワのナカガワ」を出店して都市住民への情報発信を行った結果、地域外との交流は着実に拡大した。しかしながら、短期的な経済効果を求める住民が多く、前述の交流事業への理解は進んでいない原状もある。地域づくりは短期的な結果のみならず、中長期にわたって継続するものであるため、係る事業の理解促進をどのように進めるのか、という点に課題が残る。これらの内容は、中川町で開催されたシンポジウムと、全国学会において発表した。③日本における訪日外国人の数は急速に増加し、その対応が地域社会の側に求められるようになってきた。そのため、歴史的にインバウンド観光が盛んなヨーロッパにおけるツーリストの行動パターンと観光嗜好を把握し、今後の日本国内におけるインバウンド政策を検討するための基礎的研究への寄与を目的として、2015年に実施したアンケート結果を基に分析を行った。その結果、ツーリストの行動パターンや観光嗜好には、居住地と観光地との距離や、居住国の違いが大きく影響していることがわかった。それゆえに、そうした差異を十分に考慮したインバウンド政策や地域の対応の重要性を指摘した。</p>
	研究 の 考 察 ・ 反 省	<p>地域主体による地域づくりを検討するためには、地域特性の違い、すなわち、自然・人文環境や歴史、文化、慣習などの差異を十分に把握する必要があると考えられる。それは、今年度の研究成果に基づけば、地域特性の違いが行政や地域住民、関係組織の考え方に大きく影響を与え、そのことが、地域で実践される取り組みや活動の特徴づけるからである。一方、そのような地域側の活動を地域外の人々がどのように感じるのかを把握し、ツーリストの行動パターンや観光嗜好を十分に理解して、適切なマーケティングを行うことも重要であると考えられる。</p> <p>今年度の研究における対象地域は、主に成熟した観光地と過疎地域における地域研究を実施した。しかし、地域づくりの体系化を行うためには地域特性の異なる事例地域研究の蓄積が必要である。また、地域づくりを支える住民間のネットワークがどのように形成されるの</p>

	<p>かを把握することは、地域主体の地域づくりの発展プロセスを明らかにする上で重要であるが、この点についての言及ができなかったため、今後の課題としたい。</p>
<p>研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所</p> <p>研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者</p>	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>【発表】 清水 和明・中岡 裕章・宮坂 諒・志村 衛・吉岡 大貴：千葉県市原市における中産間地域等直接支払制度の効果の検証—日本大学地理学会研究グループ成果報告—。日本大学地理学会秋季学術大会，2018年12月1日(於日本大学)。 中岡 裕章・青木 泰介：秋味まつり・中川神社祭りアンケート調査結果にみる北海道中川町の魅力。なかがわ de 地方創生シンポジウム，2019年2月4日(於北海道中川町生涯学習センターちやいむ) 中岡 裕章・町田 知未・中山 京子・櫻井 琢也・佐野 充：北海道中川町における化石を活用した地域づくりの可能性。日本地理学会春季学術大会，2019年3月20～21日(於専修大学)。</p> <p>【論文】 中岡 裕章・任 海・佐野 充(2019)：観光客の行動パターンと観光嗜好にみるヨーロッパの観光。日本大学文理学部自然科学研究所研究紀要 54, 27-37.</p>